

正の実数からなる2つの数列  $\{x_n\}$ ,  $\{y_n\}$  を次のように定める.

$$x_1 = 2, \quad y_1 = \frac{1}{2}, \quad x_{n+1} = (x_n)^5 \cdot (y_n)^2, \quad y_{n+1} = x_n \cdot (y_n)^6$$

このとき、以下の問いに答えよ.

- (1)  $k$  を実数とする.  $a_n = \log_2 x_n$ ,  $b_n = \log_2 y_n$  とおく. このとき、数列  $\{a_n + kb_n\}$  が等比数列になるような  $k$  の値をすべて求めよ.
- (2) 数列  $\{x_n\}$  の一般項を求めよ.

(25 東北大理2文2)

【答】

(1)  $k = 2, -1$

(2)  $x_n = 2^{\frac{4^n - 7^{n-1}}{3}}$

【解答】

$$x_1 = 2, \quad y_1 = \frac{1}{2} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$x_{n+1} = (x_n)^5 \cdot (y_n)^2 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

$$y_{n+1} = x_n \cdot (y_n)^6 \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

- (1)  $a_n = \log_2 x_n$ ,  $b_n = \log_2 y_n$  とおくと、 $\textcircled{1}$  より

$$a_1 = \log_2 2 = 1, \quad b_1 = \log_2 2^{-1} = -1 \quad \dots\dots \textcircled{1}'$$

である. また、2つの数列  $\{x_n\}$ ,  $\{y_n\}$  は、正の実数からなる数列であるから、各項は対数をとることができる.  $\textcircled{2}$  より

$$a_{n+1} = \log_2 \{(x_n)^5 \cdot (y_n)^2\} = 5 \log_2 x_n + 2 \log_2 y_n = 5a_n + 2b_n \quad \dots\dots \textcircled{2}'$$

であり、 $\textcircled{3}$  より

$$b_{n+1} = \log_2 \{x_n \cdot (y_n)^6\} = \log_2 x_n + 6 \log_2 y_n = a_n + 6b_n \quad \dots\dots \textcircled{3}'$$

である.

このような  $\{a_n\}$ ,  $\{b_n\}$  に対して、数列  $\{a_n + kb_n\}$  が等比数列になるような  $k$  の値を求める.

$$\begin{aligned} a_{n+1} + kb_{n+1} &= (5a_n + 2b_n) + k(a_n + 6b_n) \quad (\because \textcircled{2}', \textcircled{3}') \\ &= (5+k)a_n + (2+6k)b_n \end{aligned}$$

$\{a_n + kb_n\}$  が等比数列になる条件は、 $k$  が

$$\frac{2+6k}{5+k} = k \quad \dots\dots \textcircled{4}$$

を満たすことである. この  $k$  に対し数列  $\{a_n + kb_n\}$  は

$$a_{n+1} + kb_{n+1} = (5+k)(a_n + kb_n)$$

となる.  $\textcircled{4}$  を解くと

$$\frac{2+6k}{5+k} = k \iff \begin{cases} 2+6k = k(5+k) \\ 5+k \neq 0 \end{cases}$$

$$k^2 - k - 2 = 0 \quad \therefore (k-2)(k+1) = 0 \quad \therefore k = 2, -1$$

これは  $5+k \neq 0$  を満たす. よって、 $k$  の値のすべては

$$k = 2, -1 \quad \dots\dots (\text{答})$$

である.

- $\{a_n + kb_n\}$  が等比数列になる条件は、すべての自然数  $n$  について

$$a_{n+1} + kb_{n+1} = r(a_n + kb_n) \quad \cdots \textcircled{7}$$

が成り立つような定数  $r$  が存在することである。⑦ を  $a_n, b_n$  を用いて表すと

$$\begin{aligned} (5a_n + 2b_n) + k(a_n + 6b_n) &= r(a_n + kb_n) \\ (5+k)a_n + (2+6k)b_n &= ra_n + rkb_n \quad \cdots \textcircled{7}' \end{aligned}$$

となる。⑦' がすべての自然数  $n$  に対して成り立つためには、 $n = 1, 2$  で成り立つことが必要である。①' と

$$a_2 = 5 \cdot 1 + 2 \cdot (-1) = 3, \quad b_2 = 1 + 6 \cdot (-1) = -5$$

より、⑦' に  $n = 1, 2$  を代入すると

$$\begin{cases} (5+k) \cdot 1 + (2+6k) \cdot (-1) = r \cdot 1 + rk \cdot (-1) & \cdots \textcircled{1} \\ (5+k) \cdot 3 + (2+6k) \cdot (-5) = r \cdot 3 + rk \cdot (-5) & \cdots \textcircled{2} \end{cases}$$

が成り立ち

$$\begin{aligned} \frac{\textcircled{1} \times 5 - \textcircled{2}}{2} \text{ より } 5+k &= r \\ \frac{\textcircled{1} \times 3 - \textcircled{2}}{2} \text{ より } 2+6k &= rk \end{aligned}$$

を得る。逆に

$$\begin{cases} 5+k = r \\ 2+6k = rk \end{cases} \quad \cdots \textcircled{3}$$

ならば、⑦' はすべての自然数  $n$  について成り立つから十分である。③ を解くと

$$(k, r) = (2, 7), (-1, 4)$$

である。よって、 $k$  の値のすべては

$$k = 2, -1$$

である。

- (2)  $k = 2$  のとき、数列  $\{a_n + 2b_n\}$  は初項  $a_1 + 2b_1 = 1 + 2 \cdot (-1) = -1$ 、公比  $5 + 2 = 7$  の等比数列であるから

$$a_n + 2b_n = (-1) \cdot 7^{n-1} \quad \cdots \textcircled{8}$$

である。

$k = -1$  のとき、数列  $\{a_n - b_n\}$  は初項  $a_1 - b_1 = 1 - (-1) = 2$ 、公比  $5 + (-1) = 4$  の等比数列であるから

$$a_n - b_n = 2 \cdot 4^{n-1} \quad \cdots \textcircled{9}$$

である。

$$\frac{\textcircled{8} + \textcircled{9} \times 2}{3} \text{ より}$$

$$a_n = \frac{(-1) \cdot 7^{n-1} + 4 \cdot 4^{n-1}}{3} = \frac{4^n - 7^{n-1}}{3}$$

$$\therefore x_n = 2^{a_n} = 2^{\frac{4^n - 7^{n-1}}{3}} \quad \cdots \text{ (答)}$$

である。